

ハイダイビングとは？

水泳競技の飛込競技・高飛込の派生種目である。2013年のバルセロナ世界選手権から正式種目として採用・実施された。国際水泳連盟(FINA)の発表によると、飛込台の高さは男子が27メートル、女子が20メートルに設定される。ダイナミックな演技から注目を集める種目である。また、世界最古のエクストリームスポーツとも呼ばれている。



↑ 27mからの演技

現在、オリンピック種目に追加に向けたPR活動をオリンピック委員会に行っている。

2018年現在、オリンピックや世界選手権で実施されている高飛込の飛込台の高さは10メートル。ハイダイビングは高飛込の2倍以上の高さから飛び込むことになる。入水場所には、ダイバーが3名待機。入水時の速度は時速100キロにもおよぶ。より高い位置から飛び込むハイダイビングでは、入水時にいっそう大きな衝撃を受け、怪我をする危険性も高まるため、選手にはミスのない高度な演技が求められる。

高飛込競技と異なる点は、ハイダイビングは必ず足から入水すること。時速100キロにも及ぶ着水でかかる圧力を高飛込のように手で受けるのは困難なためである。

ハイダイビングの見方

ハイダイビング競技は、制限選択2演技、自由選択3演技、合計5演技が行われる。すべて異なる演技を行う必要がある。

世界選手権を例にすると、予選2演技は制限選択飛(難易度制限がある)。準決勝は、自由選択飛2演技、決勝は自由選択飛1演技が行われる。ジャッジ5名が採点し上下1名ずつを削って3名の採点合計に難易度をかけて求められる得点の合計で順位を決定する。